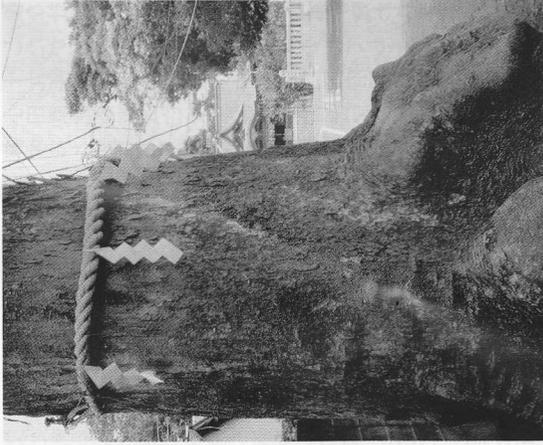
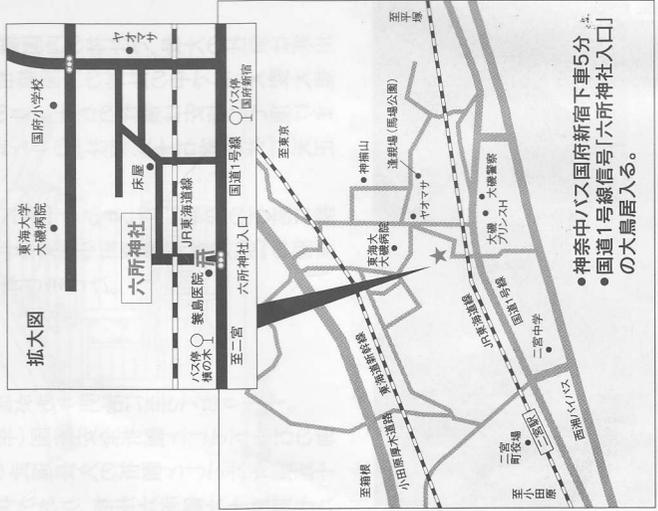


年代	出来事	出典	年代	出来事	出典
神代 饒武皇甲子	氏族が現在の大磯町石神山頂に柳田大神を創建	社伝	建武三年(一一五二) 四月四日	宗義親王第六代征夷大将軍就任の事始めに磐島神鹿を奉納	吾妻鏡
養老三年(七二八) 四月八日	大磯町石神山頂より理窟座地に遷座この時より柳田大神改め、相模國總社六所神社となる	社伝	心 二四年(一一〇〇)	小田原市久野の総世寺蓮鐘に「相模國總社柳田禁六所宮」との鐘銘ありこの鐘は成安十五年中作られ六所神社に奉納されていきました。しかし戦国時代末期豊臣秀吉の小田原攻めの際に秀吉の甥河野孫兵衛が鐘中を盗用し小田原開城後、総世寺に奉納されました。	「小田原の文化財上り」
天保元年(七九八) 五月五日	早良親王義成征討に際し退壇祈願	社伝	永正年間 (一五〇四～一五二一)	北条氏綱公六所神社造営	社伝
平家三代末期 十月十一日	御神像二社奉納される(遷す)	社伝	天文三年(一五三〇) 十月十三日	北条氏綱公六所神社本殿の棟札を鶴岡へ傳造造営責任者「太田直勝」に送り書式を指示	陸奥郡記
源頼朝公 十三年(一一八二)	源頼朝公「富士川の合戦」に際し六所神社に戦勝祈願	吾妻鏡	天文三年(一五三〇) 十月十三日	北条氏綱公より社領の寄進 相州六所鎮六五貫七八文	相模國志
源頼朝公 十三年(一一八二)	源頼朝公六所神社にて北条時政等二十五名と論功行賞を行う	吾妻鏡	十月九日(一五三二)	徳川家康公より五十五石の寄進状(以後歴代將軍すれに倣う)	相模國志
文治元年(一一一三) 十二月十日	源頼朝公 国士奉子を祈り願書奉納	吾妻鏡	正徳元年(一七一一) 四月	六所神社宮鐘鑄造される相州餘儀郡府中六所長所神鑄鐘の鐘銘あり(現在餘儀沢の寶鐘院境内にあり)	風土記相模
文治三年(一一一五) 五月二十日	源頼朝公六所神社御社造営	吾妻鏡	四月	江戸幕府より相模國惣祭についての制札を頂く	風土記相模
建久三年(一一三二) 五月八日	後白河天皇十七日の弘事(於鎌倉)に六所神社の社僧一人参加、御札と五斗を三段と米を頂く	吾妻鏡			
建久三年(一一三二) 八月廿日	源頼朝公、奥方北条政子の安産祈願の為神鹿を奉納	吾妻鏡			



参道の大観(樹齢600年と伝えられる)



〒259-0111 神奈川県大磯町国府本郷935
電話:0463-71-3737 FAX:0463-71-1716

